

令和2年度 九州工業大学2次試験前期日程(数学問題)

工学部・情報工学部 令和2年2月25日

数I・II・III・A・B(120分)

問題 1 2 3 4

1 xy 平面上の曲線 $C: y = 2\log x$ と、実数 a によって定まる曲線 $D: y = x^2 + a$ を考える. 曲線 C と曲線 D は点 $P(p, q)$ を通り, 点 P における共通の接線 l をもつ. 次に答えよ.

- (1) 点 P の座標 (p, q) , 実数 a の値, および接線 l の方程式をそれぞれ求めよ.
- (2) 曲線 C と曲線 D , および直線 $x = t$ ($0 < t < p$) で囲まれた領域の面積 $S(t)$ を t を用いて表せ. また, $\lim_{t \rightarrow +0} S(t)$ を求めよ. ただし, 必要ならば $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x} = 0$ が成り立つことを用いてもよい.
- (3) 曲線 C と曲線 D , および直線 $x = t$ ($t > p$) で囲まれた領域の面積 $T(t)$ を t を用いて表せ. また, 関数 $f(t) = \frac{T(t)}{t^3}$ は区間 $t > p$ で増加することを示せ.

2 xy 平面上の点 $A(0, -\pi)$, 点 $B(0, \pi)$, および動点 P を考える. 動点 P は時刻 0 では点 A にある. 時刻 t における動点 P の座標を $(x(t), y(t))$ とすると, 動点 P の速度 $\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$ は,

$$y(t) \leq 0 \text{ のとき } \vec{v} = (a \cos b + \sin y(t), a \sin b)$$

$$y(t) > 0 \text{ のとき } \vec{v} = \left(0, \frac{1}{2\pi b} \right)$$

で与えられる. ただし, 実数 a, b は $a > 0$, $0 < b < \frac{\pi}{2}$ をみたす. 次に答えよ.

- (1) 動点 P が点 A から x 軸上の点に到達するまでの間の $y(t)$ を t, a, b を用いて表せ.
- (2) 動点 P が点 A から x 軸上の点に到達するまでの間の $x(t)$ を t, a, b を用いて表せ.
- (3) 動点 P が原点 O に到達するためにみたすべき条件を a と b を用いて表せ.
- (4) 動点 P が時刻 T に点 B に到達した. 時刻 T を b を用いて表せ. また, T の最小値とそのときの b を求めよ.

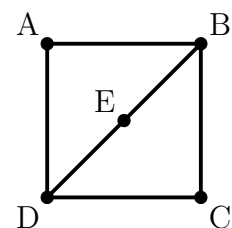
3 α, β は定められた複素数とする。複素数平面上の点 z_1 に対して、
 z_n ($n = 2, 3, 4, \dots$) を以下の規則によって定める。

$$\text{(規則)} \quad z_n = \alpha z_{n-1} + \beta$$

点 z_1 として $z_1 = 3\sqrt{3} - 3i$ を選び、この規則を用いて z_2, z_3 を定めたところ、
 $z_2 = \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i, z_3 = 3i$ となった。次に答えよ。

- (1) z_1 と z_2 を通る直線と、 z_2 と z_3 を通る直線を考える。この2直線のなす角 θ ($0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$) を求めよ。
- (2) α と β を求めよ。また、それぞれの絶対値、偏角も求めよ。
- (3) 規則に示した z_n と z_{n-1} の関係を $z_n - \gamma = \alpha(z_{n-1} - \gamma)$ と表す。 γ を求めよ。
- (4) z_n を z_1, α および (3) の γ を用いて表せ。ただし、 z_1, α および γ は記号のまま表せ。
- (5) 複素数平面上の点 z_1 を選びなおし、規則を用いて z_5 を定めなおす。 z_5 が $|z_5| < 1$ をみたすために z_1 がみたすべき条件を求めよ。また、その条件をみたす点 z_1 の全体の表す図形を複素数平面上に図示せよ。

- 4 右図のように、正方形 ABCD があり、対角線 BD の中点を E とする。時刻 $n = 0$ において、点 P は頂点 A であり、点 Q は頂点 C にある。時刻 $n = 1, 2, 3, \dots$ における点 P と点 Q の位置は、次の移動規則によって定まる。



- 点 P の移動規則

時刻 $n - 1$ における点 P の位置が頂点 A のときは、それぞれ $\frac{1}{2}$ の確率で頂点 B か頂点 D に移動する。頂点 B または頂点 D のときは、それぞれ $\frac{1}{2}$ の確率で頂点 A か頂点 C に移動する。頂点 C のときは、移動せずそのままとどまる。

- 点 Q の移動規則

時刻 $n - 1$ における点 Q の位置が頂点 C のときは、それぞれ $\frac{1}{3}$ の確率で頂点 B に移動するか頂点 D に移動するか移動せずそのままとどまる。頂点 B または頂点 D のときは、それぞれ $\frac{1}{3}$ の確率で頂点 A に移動するか点 E に移動するか移動せずそのままとどまる。頂点 A または点 E のときは、移動せずそのままとどまる。

次に答えよ。

- (1) 時刻 $n = 4$ における点 P の位置が頂点 C である確率を求めよ。
- (2) 時刻 n における点 Q の位置が頂点 B である確率を求めよ。
- (3) 時刻 n において、はじめて点 Q の位置が頂点 A となる確率を求めよ。
- (4) 時刻 $n = 4$ までに、少なくとも一度、同時刻に点 P と点 Q の位置が頂点 B となる確率を求めよ。
- (5) 時刻 $n = 4$ における点 P の位置が頂点 C であった。このとき、はじめて点 P の位置が頂点 C となった時刻より前に点 Q の位置が頂点 A となる条件付き確率を求めよ。

解答例

1 (1) $g(x) = 2 \log x$, $h(x) = x^2 + a$ とおくと $g'(x) = \frac{2}{x}$, $h'(x) = 2x$

2 曲線 $C_1 : y = g(x)$, $C_2 : y = h(x)$ が, 点 $P(p, q)$ で共通接線 l をもつから, l の傾きを m とすると, $q = g(p) = h(p)$, $m = g'(p) = h'(p)$ より

$$q = 2 \log p = p^2 + a, \quad m = \frac{2}{p} = 2p \quad \dots (*)$$

(*) の第 2 式から ($p > 0$) $p = 1$, $m = 2$

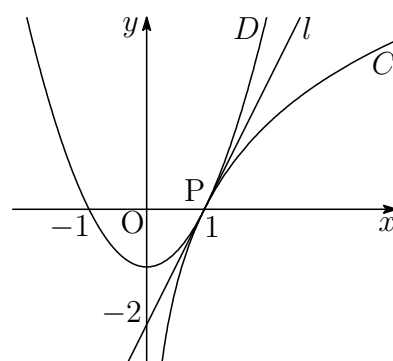
$p = 1$ を (*) の第 1 式に代入して

$$q = 0 = 1 + a \quad \text{ゆえに} \quad a = -1$$

したがって $P(1, 0)$

l は, P を通り, 傾き 2 の直線であるから

$$y = 2(x - 1) \quad \text{すなわち} \quad y = 2x - 2$$



(2) $C : y = 2 \log x$, $D : y = x^2 - 1$ より, $0 < t < 1$ のとき

$$\begin{aligned} S(t) &= \int_t^1 (x^2 - 1 - 2 \log x) dx = \left[\frac{x^3}{3} + x - 2x \log x \right]_t^1 \\ &= \frac{4}{3} - \frac{t^3}{3} - t + 2t \log t \end{aligned}$$

ここで $\lim_{t \rightarrow +0} t \log t = \lim_{u \rightarrow \infty} \frac{1}{u} \log \frac{1}{u} = \lim_{u \rightarrow \infty} \left(-\frac{\log u}{u} \right) = 0$

よって $\lim_{t \rightarrow +0} S(t) = \lim_{t \rightarrow +0} \left(\frac{4}{3} - \frac{t^3}{3} - t + 2t \log t \right) = \frac{4}{3}$

(3) (2) と同様に, $t > 1$ のとき

$$\begin{aligned} T(t) &= \int_1^t (x^2 - 1 - 2 \log x) dx = \left[\frac{x^3}{3} + x - 2x \log x \right]_1^t \\ &= \frac{t^3}{3} + t - 2t \log t - \frac{4}{3}, \\ f(t) &= \frac{T(t)}{t^3} = \frac{1}{3} + \frac{1}{t^2} - \frac{2 \log t}{t^2} - \frac{4}{3t^3} \\ f'(t) &= -\frac{4}{t^3} + \frac{4 \log t}{t^3} + \frac{4}{t^4} = \frac{4}{t^3} \left(-1 + \log t + \frac{1}{t} \right) \end{aligned}$$

$$\varphi(t) = -1 + \log t + \frac{1}{t} \text{ とおくと } (t \geq 1)$$

$$\varphi'(t) = \frac{1}{t} - \frac{1}{t^2} = \frac{t-1}{t^2} > 0 \quad (t > 1)$$

$$\varphi(1) = 0 \text{ であるから } t \geq 1 \text{ において } \varphi(t) \geq 0$$

$$\text{したがって } t > 1 \text{ において } f'(t) = \frac{4\varphi(t)}{t^3} > 0$$

よって $f(t)$ は区間 $t > 1$ で増加する ■

2 補足 与えられた条件より, $\frac{dy}{dt} > 0$ であるから, 動点 P は y 軸の正の向きに運動する. $t = 0$ で $A(0, -\pi)$ にあった点 P が $t = T_1$ 秒後に x 軸上の点に到達するものとする, その後, P の x 軸方向の速度ベクトルが $\frac{dx}{dt} = 0$ であることから, y 軸と平行な向きに等速度 $\vec{v} = \left(0, \frac{1}{2\pi b}\right)$ で運動し, 点 $B(0, \pi)$ に到達する. すなわち, $t = T_1$ で P は原点 O を通過し, その後, P は y 軸上を等速度で点 B まで運動する. OB 間の移動に要する時間を T_2 とすると, P は $t = T$ ($T = T_1 + T_2$) で B に到達する.

(1) 動点 P が点 A から x 軸上の点に到達するまで, y 軸方向の速度ベクトル

$$\frac{dy}{dt} = a \sin b$$

が一定であるから, これを t について積分すると

$$y(t) = at \sin b + C_1 \quad (C_1 \text{ は積分定数})$$

$$y(0) = -\pi \text{ であるから, これを上式に代入すると } C_1 = -\pi$$

$$\text{よって } \mathbf{y(t) = at \sin b - \pi}$$

(2) (1) の結果を $\frac{dx}{dt} = a \cos b + \sin y(t)$ に代入すると

$$\frac{dx}{dt} = a \cos b + \sin(at \sin b - \pi) = a \cos b - \sin(at \sin b)$$

これを t について積分すると

$$x(t) = at \cos b + \frac{\cos(at \sin b)}{a \sin b} + C_2 \quad (C_2 \text{ は積分定数})$$

$$x(0) = 0 \text{ であるから, これを上式に代入すると } C_2 = -\frac{1}{a \sin b}$$

$$\text{よって } \mathbf{x(t) = at \cos b + \frac{\cos(at \sin b)}{a \sin b} - \frac{1}{a \sin b}}$$

(3) $t = T_1$ で原点 O に到達するとき, (1), (2) の結果から

$$aT_1 \sin b - \pi = 0, \quad aT_1 \cos b - \frac{\cos(aT_1 \sin b - \pi)}{a \sin b} - \frac{1}{a \sin b} = 0$$

上の第 1 式から, $T_1 = \frac{\pi}{a \sin b} \dots \textcircled{1}$. これを第 2 式に代入すると

$$\frac{\pi \cos b}{\sin b} - \frac{2}{a \sin b} = 0 \quad \text{よって} \quad \mathbf{a = \frac{2}{\pi \cos b}}$$

(4) $y(t)$ の符号に関係なく, $\frac{dy}{dt} > 0$ であるから, $A(0, -\pi)$ を出発した P が x 軸を通過し, その後の x 軸方向の速度ベクトルが $\frac{dx}{dt} = 0$ であるから, y 軸と平行な向きに等速度 $\vec{v} = \left(0, \frac{1}{2\pi b}\right)$ で運動し, 点 $B(0, \pi)$ に到達する. すなわち, $t = T_1$ で P は原点 O を通過し, その後, P は y 軸上を等速度で点 B まで運動する. OB 間の移動に要する時間を T_2 とすると

$$\frac{1}{2\pi b} \cdot T_2 = \pi \quad \text{ゆえに} \quad T_2 = 2\pi^2 b$$

また, (3) の結果を $\textcircled{1}$ に代入すると

$$T_1 = \frac{\pi \cos b}{2} \cdot \frac{\pi}{\sin b} = \frac{\pi^2}{2 \tan b}$$

$$\text{よって} \quad T = T_1 + T_2 = \frac{\pi^2}{2 \tan b} + 2\pi^2 b = \pi^2 \left(\frac{1}{2 \tan b} + 2b \right)$$

$$f(b) = \frac{1}{2 \tan b} + 2b \quad \text{とおくと} \quad \left(0 < b < \frac{\pi}{2} \right)$$

$$f'(b) = -\frac{1}{2 \sin^2 b} + 2 = \frac{4 \sin^2 b - 1}{2 \sin^2 b} = \frac{(2 \sin b + 1)(2 \sin b - 1)}{2 \sin^2 b}$$

b	(0)	\dots	$\frac{\pi}{6}$	\dots	$\left(\frac{\pi}{2}\right)$
$f'(b)$		$-$	0	$+$	
$f(b)$		\searrow	極小	\nearrow	

よって, T は $b = \frac{\pi}{6}$ のとき, 最小値 $\pi^2 f\left(\frac{\pi}{6}\right) = \pi^2 \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\pi}{3}\right)$ をとる. ■

$$\begin{aligned} \text{3 (1) } z_2 - z_1 &= \frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i - (3\sqrt{3} - 3i) = -\frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{9}{2}i \\ &= 3\sqrt{3} \left(-\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = 3\sqrt{3} \left(\cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} z_3 - z_2 &= 3i - \left(\frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i \right) = -\frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i \\ &= 3 \left(-\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) = 3 \left(\cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6} \right) \end{aligned}$$

$$\text{ゆえに } \frac{z_3 - z_2}{z_2 - z_1} = \frac{3 \left(\cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6} \right)}{3\sqrt{3} \left(\cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right)} = \frac{1}{\sqrt{3}} \left(\cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

$$\text{よって } \theta = \arg \left(\frac{z_3 - z_2}{z_2 - z_1} \right) = \frac{\pi}{6}$$

(2) 与えられた規則により $z_2 = \alpha z_1 + \beta$, $z_3 = \alpha z_2 + \beta$

$$z_1 \neq z_2 \text{ に注意してこれを解くと } \alpha = \frac{z_3 - z_2}{z_2 - z_1}, \quad \beta = \frac{z_2^2 - z_1 z_3}{z_2 - z_1}$$

$$\begin{aligned} z_2^2 - z_1 z_3 &= \left(\frac{3\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i \right)^2 - (3\sqrt{3} - 3i) \cdot 3i \\ &= -\frac{9}{2} - \frac{9\sqrt{3}}{2}i = 9 \left(-\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = 9 \left(\cos \frac{4\pi}{3} + i \sin \frac{4\pi}{3} \right), \\ \frac{z_2^2 - z_1 z_3}{z_2 - z_1} &= \frac{9 \left(\cos \frac{4\pi}{3} + i \sin \frac{4\pi}{3} \right)}{3\sqrt{3} \left(\cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right)} = \sqrt{3} \left(\cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right) \end{aligned}$$

上の諸式および(1)の結果から

$$\begin{aligned} \alpha &= \frac{1}{\sqrt{3}} \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right), \quad |\alpha| = \frac{1}{\sqrt{3}}, \quad \arg \alpha = \frac{\pi}{6}, \\ \beta &= \sqrt{3} \left(-\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right), \quad |\beta| = \sqrt{3}, \quad \arg \beta = \frac{2\pi}{3} \end{aligned}$$

(3) $\gamma = \alpha\gamma + \beta \cdots$ ①とおくと、(規則)と①との辺々の差をとると、関係式

$$z_n - \gamma = \alpha(z_{n-1} - \gamma) \quad \cdots (*)$$

が得られるから、①を満たす γ を求めればよい.

$$\gamma = \frac{\beta}{1 - \alpha}$$

$$\alpha = \frac{1}{\sqrt{3}} \left(\cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) = \frac{1}{2} + \frac{1}{2\sqrt{3}}i \text{ より}$$

$$\begin{aligned} 1 - \alpha &= 1 - \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2\sqrt{3}}i \right) = \frac{1}{2} - \frac{1}{2\sqrt{3}}i \\ &= \frac{1}{\sqrt{3}} \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{1}{2}i \right) = \frac{1}{\sqrt{3}} \left\{ \cos \left(-\frac{\pi}{6} \right) + i \sin \left(-\frac{\pi}{6} \right) \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad \gamma &= \frac{\beta}{1 - \alpha} = \frac{\sqrt{3} \left(\cos \frac{2\pi}{3} + i \sin \frac{2\pi}{3} \right)}{\frac{1}{\sqrt{3}} \left\{ \cos \left(-\frac{\pi}{6} \right) + i \sin \left(-\frac{\pi}{6} \right) \right\}} \\ &= 3 \left(\cos \frac{5\pi}{6} + i \sin \frac{5\pi}{6} \right) \\ &= 3 \left(-\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) \end{aligned}$$

(4) (*) より、 $\{z_n - \gamma\}$ は初項 $z_1 - \gamma$ 、公比 α の等比数列であるから

$$z_n - \gamma = \alpha^{n-1}(z_1 - \gamma) \quad \text{よって} \quad z_n = \gamma + \alpha^{n-1}(z_1 - \gamma)$$

(5) $w = \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6}$ とおくと, (2), (3) の結果から

$$\alpha = \frac{1}{\sqrt{3}}w, \quad \beta = \sqrt{3}w^4, \quad \gamma = 3w^5$$

(4) の結果から

$$\begin{aligned} z_5 &= \gamma + \alpha^4(z_1 - \gamma) = 3w^5 + \frac{1}{9}w^4(z_1 - 3w^5) \\ &= \frac{1}{9}w^4(z_1 + 27w - 3w^5) \end{aligned}$$

ここで

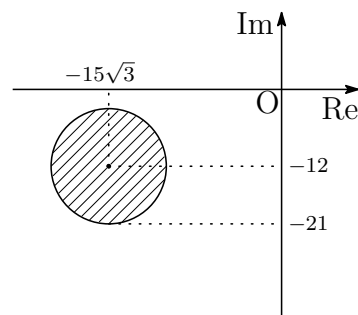
$$27w - 3w^5 = 27 \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) - 3 \left(-\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) = 15\sqrt{3} + 12i$$

$|z_5| < 1$ より

$$\frac{1}{9}|w^4||z_1 + 27w - 3w^5| < 1$$

$$\text{ゆえに } |z_1 + 15\sqrt{3} + 12i| < 9$$

よって, 点 z_1 は, $-15\sqrt{3} - 12i$ を中心とする半径 **9** の円の内部にある. ただし, 境界線は含まない.



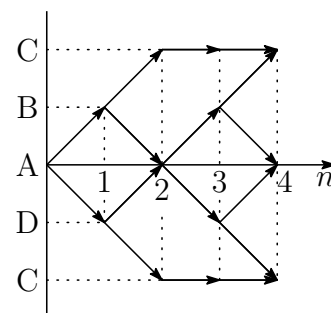
■

- 4 (1) 時刻 $n = 4$ において、点 P は頂点 A または C にある。 $n = 4$ で点 P が頂点 A にある確率は

$$\left(\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$$

求める確率は、この余事象の確率であるから

$$1 - \frac{1}{4} = \frac{3}{4}$$



- (2) 点 Q が時刻 n で、頂点 B, C にある確率をそれぞれ b_n, c_n とすると、点 Q の移動規則により、次の確率漸化式が成立する。

$$b_0 = 0, \quad c_0 = 1, \quad b_{n+1} = \frac{1}{3}b_n + \frac{1}{3}c_n, \quad c_{n+1} = \frac{1}{3}c_n$$

数列 $\{c_n\}$ は初項 1, 公比 $\frac{1}{3}$ の等比数列であるから $c_n = \frac{1}{3^n}$

これから $b_{n+1} = \frac{1}{3}b_n + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3^n}$ したがって $3^{n+1}b_{n+1} - 3^n b_n = 1$

$$n \geq 1 \text{ のとき } \sum_{k=0}^{n-1} (3^{k+1}b_{k+1} - 3^k b_k) = n \quad \text{ゆえに } b_n = \frac{n}{3^n}$$

$$n = 0 \text{ のときも成立するから } b_n = \frac{n}{3^n}$$

- (3) 時刻 n において、点 Q が頂点 D にある確率は、B と D の対称性により

$$b_n$$

時刻 n ($n \geq 1$) において、はじめて点 Q が頂点 A にある確率は、点 Q の移動規則により

$$b_{n-1} \times \frac{1}{3} \times 2 = \frac{2(n-1)}{3^n}$$

$n = 0$ のときは、その確率は 0 であるから、求める確率は

$$n = 0 \text{ のとき } 0, \quad n \geq 1 \text{ のとき } \frac{2(n-1)}{3^n}$$

- (4) 時刻 $n = 4$ までに、同時刻に点 P と点 Q の位置が B であるのは、1 秒後と 3 秒後である。2 点 P, Q の位置が 1 秒後, 3 秒後に B である事象を、それぞれ X, Y とすると、そのときの確率について

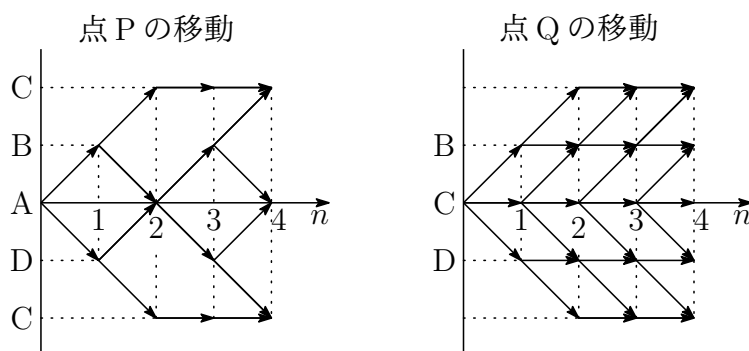
$$P(X) = \frac{1}{2}b_1 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{6}$$

$$P(Y) = \frac{1}{4}b_3 = \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{9} = \frac{1}{36}$$

$$P(X \cap Y) = \left(\frac{1}{2}\right)^3 \left(\frac{1}{3}\right)^3 = \frac{1}{216}$$

よって $P(X \cup Y) = P(X) + P(Y) - P(X \cap B)$

$$= \frac{1}{6} + \frac{1}{36} - \frac{1}{216} = \frac{41}{216}$$



- (5) はじめて点 P の位置が頂点 C となるのは、2 秒後と 4 秒後であるが、2 秒後よりも前に点 Q の位置が頂点 A となることはない。4 秒後にはじめて点 P の位置が頂点 C にある確率は

$$\left(\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right) \left(\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}\right) = \frac{1}{4}$$

(3) で求めた確率を

$$q_n = \frac{2(n-1)}{3^n} \quad (n \geq 1)$$

とおく。4 秒後に点 P の位置が頂点 C にある事象を S 、はじめて点 P の位置が頂点 C となった時刻より前に点 Q の位置が頂点 A となる事象を T とすると、(1) の結果および上式における $n = 2, 3$ の場合から

$$P(S) = \frac{3}{4}, \quad P(S \cap T) = \frac{1}{4}(q_2 + q_3) = \frac{1}{4} \left(\frac{2}{9} + \frac{4}{27} \right) = \frac{1}{4} \cdot \frac{10}{27}$$

よって、求める確率は $P_S(T) = \frac{P(S \cap T)}{P(S)} = \frac{\frac{1}{4} \cdot \frac{10}{27}}{\frac{3}{4}} = \frac{10}{81}$ ■